

札幌市内の相談支援事業所への医療的ケア児等コーディネーター配置状況（R6.12.1現在）

▶北海道医療的ケア児等コーディネーター名簿登録者273名のうち、札幌市勤務が57名、うち相談支援事業所勤務が12名（委託3名、指定9名）※法人名で登録している者は含まず

以下は、委員の皆様からいただいたご意見を抜粋・要約した内容です。

主な課題

相談支援関係

■課題、現状

- ・札幌では「セルフプラン」が主で、医ケア児に限らず児童の相談に弱い傾向がある。
- ・狭義の医ケア児は、相談支援事業所における計画相談の対象外（報酬無）で継続的な対応が困難。
- ・医療依存度が高い重度の医ケア児は、相談支援事業所に相談を持ち掛けても経験知識不足を理由に断られることが多い（仮に受けても、特に医療機関との連携構築に不足が生じ、契約が継続できない場合がある）。

■現行の対応

- ・相談支援事業所で対応を断られた重度の医ケア児や狭義の医ケア児はサポート医派遣事業で対応していることが多い。
- ・北海道医療的ケア児支援センターに、相談室から医ケア児支援について相談が寄せられることはほとんどない…。

➡全ての相談室に重度の医療的ケア児にきめ細やかな対応を求めるのは現実的でない。また、報酬の伴わない狭義の医ケア児等の相談支援を担わせるのも難しい…。

コーディネーター関係

■課題、現状

- ・札幌市では医療的ケア児等コーディネーターの役割が明確化されていない。
- ・病院側のコーディネーターと地域の福祉サービス側のコーディネーターの連携が必要。
- ・札幌市の医療的ケア児コーディネーターの数とニーズは合っているのか

その他

■課題、現状

- ・札幌市内でも地域によって医ケア児と関わる機関や支援の内容に違いがあるのではないかと。
- ・学校や児童クラブへの看護師派遣に対応できるのは、訪問看護ステーション協議会参加の約170カ所のSTのうち10カ所程度。

必要な取組

札幌市として医療的ケア児の相談支援体制を明確な指針のもとで構築する（どの機関にどのような状態の医療的ケア児を担当させるのか）。その担当機関に医療的ケア児等コーディネーターを計画的に配置する（委託相談支援事業所、各区保健センター、医療機関地域連携室等）。

保育所・幼稚園、学校の選択時の希望と受入実態の把握、本人・保護者の将来の希望等の調査の実施
…相談支援において事業所（保育所・幼稚園、学校、福祉サービス）の特性を把握できているかは、結果に大きく影響

重心児・医ケア児に関わることを敬遠されないために、複数の人・事業で支える仕組みを作る

札幌市の医療的ケア児コーディネーターが一堂に会する場を作り、実際の関わり方や困難さを知る機会を作る

札幌市の医療的ケア児コーディネーターの検討会への参加、横のつながりづくり

コーディネーターを事業化して役割を明確にする（報酬として担保することで実働できるか判断）

医療・福祉の両方の情報が集約する場所（児発センター・医療型短期入所事業所等）づくり

看護師確保について基幹病院と教育委員会による体制作り（看護師確保と安定雇用に向けた取り組み）

各分野で連携・協働できる体制作りが必要。医療分野とタッグを組んで、雇用、教育、相談、支援などができるとよい。